



公開講座開催

去る5月24日の土曜日に、第34回目を迎えた昭和大学公開講座が富士吉田キャンパスで開催されました。「暮らしと健康」をテーマに掲げる公開講座の今回の演題は、昭和大学大学院保健医療学研究所准教授の島居美幸先生による「健康長寿を願って…一人ひとりができること…」と、昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門教授の弘中祥司先生による「しっかり噛むことで出来る健康長寿」との二本で、富士吉田市教育長である秋山勝彦様によるご挨拶をいただき、公開講座が開講しました。

島居先生は、ただ長生きするのではなく健康で元気に長生きすることの大切さと、日常生活における意識の持ち方について、優しい話し方でご講演されました。

弘中先生のご講演はユーモアあふれる語り口で、食べることの大切さや健康的な生活を送るための口腔ケアなどについて解説されていました。あっという間に、参加者を惹きつける弘中先生の話術は大変に衝撃的でした。

島居先生、弘中先生とも、講座終了後の多数の質問に対し、一つ一つ丁寧に答えられていたのが印象的でした。

公開講座委員 萩原 康夫



高齢者疑似体験

去る6月2日、高齢者疑似体験実習を行いました。9月に行われる初年次体験実習では多くの学生が高齢者福祉施設での実習を経験します。高齢者の方々はそのような視点でものを見るのか、どのような動きが大変なのか、どう介助してもらえると助かるか、また介助する側にはどのような注意が必要か、まずは自分達で互いに体験してみる実習です。

腕や足にサポーターと重りを巻き、鉛入りのベストを着用。耳栓、ゴーグル、手袋は3重に重ね、視覚、聴覚、動きを制限された動作に学生たちは四苦八苦していました。装具を着用するだけでなく、杖をつき、椅子に座る、ペットボトルを持ち上げ蓋を開ける、薬を取り出すなどの日常動作にどのような大変さかともなうかを実感する機会となりました。

合わせて車椅子の介助実習も行いました。快晴に恵まれたこの日は、屋外の歩道で車椅子を実際に押し、坂道やわずかな段差を安全に通過するためにはどうしたらいいかを考える体験となりました。この体験で感じたことを今後活かしてくれることを期待しています。

刑部慶太郎 前田 昌子



地域紹介

新倉山浅間公園

富士急行線の下吉田駅から歩いて五分、富士吉田市中心街の北方に位置する新倉山浅間神社。木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）、大山祇命（おおやまずみのみこと）そして瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）をご祭神とするこの神社は、霊峰の裾野にひろがる富士吉田一望のもとに見おろす名所です。

延暦21年（西暦802年）に富士山の噴火があり、断続的に噴火が続いたものの、鎮火祈願の祭事により翌春に噴火が収まり、これを寿ぐべく平城天皇より「三国第一山」の称号があたえられたとされています。

鳥居をくぐり山肌を這うおよそ四百段の石段をのぼると、目の前に鮮やかな五重塔があらわれます。神社に五重塔という珍しい組合せですが（ほかに厳島神社が有名）、これは第二次大戦時の富士吉田の戦没者を祀る忠霊塔です。昭和38年に創建された塔の内部には1055柱の霊が祀られています。

この一帯は昭和34年に新倉山浅間公園として整備され、今日も多くの市民が憩いの場として訪れます。ことに桜の名所として知られ、満開の桜と忠霊塔とを前景に据え、富士吉田市を抱くように聳える富嶽を一望する雄大さには、思わず賛嘆の声がこぼれます。四百段に及ばんとする石段に息を切らせながら忠霊塔を目指すもよし、それが厳しい向きには木立を縫う女坂をのぼり、眼前に広がる吉田の町とさらさらと流れる新倉川とを眺めつつ、石段をのんびり下るのも一興です。

「文学」担当 田中 周一



「霊峰を拝す」田中 周一 撮影



「忠霊塔」田中 周一 撮影



「春爛漫」平井 康昭 撮影

清掃活動

5月18日午前10時から、地域交流委員会の活動を富士吉田ロータリークラブと合同で実施しました。今回は金鳥居公園での植花と富士みち（バイパス～金鳥居）の清掃活動を行いました。金鳥居公園は富士山駅のすぐ近くで金鳥居のある富士みちに面しており、多くの観光客が立ち寄る場所です。ここに花を植え、訪れる人の目を楽ませることが目的です。作業は用意したプランターに培養土をいれ、ポットの苗を植え替えていくものでした。

一方、古来からの吉田口登山道である富士みちの清掃活動は金鳥居からバイパスまでの間で行いました。火祭りの会場でもある富士みちは、富士山の世界遺産登録を機に道沿いの御師の家等を含めて整備されるなど、観光資源としての重要性が増しています。そこで、この富士みちの清掃活動を行うとともに、観光客の受け入れのため市民の意識を向上させる目的がありました。学生は清掃活動を行いながらこれらの観光スポットを見学するなど、富士山への理解が深まった一日でした。

地域交流委員長 堀川 浩之



編集後記

前期中のイベントがメイン記事となる今号は、とても賑やかな誌面となりました。学生たちは授業や実習と並行して祭等の準備を行ったり、週末の行事に参加したりと充実した日々だったと思います。

次号は、後期早々に行われる初年次体験実習を掲載する予定です。次号も富士吉田での活動を身近に感じられるような誌面になるよう、編集委員一同で務めますので、ご期待ください。

事務課 出口 太一



歯学部・鈴木 佑理（秀明高等学校出身）撮影

医療人としての第一歩

富士吉田教育部・心理学 中川 佳子

4月に富士吉田教育部・教授に就任いたしました。専門は発達臨床心理学で、赤ちゃんから100歳超の高齢者のこころの発達を研究しています。また、臨床心理士として、発達障害児や聴覚障害児など特別な配慮が必要な児童の心理的な支援を研究しています。どうぞよろしくお願いたします。

就任後の最初の仕事は指導担任制度による担当学生のお世話をさせていただくことでした。通称「部屋コン」と呼ばれる制度です。これは教員が20名ほどの学生の担任となり、学習や生活面での支援や指導を行う制度です。富士吉田キャンパスで寮生活を始める学生さんの中には、初めて親元を離れて生活する人も少なくありません。もちろん、同じ医療系を志す学生が集まっているのですから、同一の目的に向かって楽しく勉強や生活が送れることは間違いありません。ただ、入寮前には人間関係がうまくいくのか、心配される学生さんも多いと聞きます。

実際、私が担当する男女二つの寮の部屋コン・メンバーはよく勉強し、そしてよく遊びます。学習や生活面でお互いに助け合い、情報交換をしながら自ら問題を発見し解決していきます。寮生活は、今までのような自分中心の家族単位から、他者との共同生活を営み社会性を養う場でもあります。そこで自分とは違うさまざまな他者がいることを発見するでしょう。他者を理解し、ともに成長するにはどうすればいいのか。それを寮生活で実際に経験しながら、医療人としての心を養います。1年間の寮生活を通じて、自分とは異なる価値観や生活をする人がいることを互いに認め合い、協調性と柔軟性のある人間へと成長していきます。

一方、寮内の部屋コンという小さな集団の人間関係は、授業やクラブ活動を通じて、メンバーが所属する学部や寮フロア、学年全体という大きなコミュニティへと拡大していきます。そして、この人間関係が将来さまざまな形で医療を担う人としてのチーム医療へと発展していきます。

富士吉田キャンパスの全寮制共同生活は医療人としての第一歩です。1年間で学生のみなさんがどれほど成長していくか楽しみにしています。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮（男子寮）」「百合寮（女子寮）」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

昭和大学に入学して

薬学部 鹿間 沙生 (田園調布学園高等学校出身)

昭和大学に入学し、富士吉田キャンパスでの生活が始まってから、早三か月が経ちました。入学したばかりの富士吉田はまだ肌寒く、桜も咲いていませんでした。

4月7日の入学式の後、学部ごとにバスで移動し、同室の人と初めて顔合わせをしたその日から私たちの大学生生活が始まりました。入寮してすぐ、第一講堂で教員の紹介、小出学長によるアイデンティティ教育が行われ、みな熱心に話を聞いていました。その後も入寮式や新入生歓迎会、ウェルカムパーティーなどが開催されました。ウェルカムパーティーでは部屋コンごとに集まったテーブルに指導担任、上級生も加わり、みな和気藹々と談笑する姿が見られ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

入学当初は寮生活を上手くやっっていけるかという不安でいっぱいでした。しかし、みなとあいさつをかわし、寝食を共にし、会話が増えるにしたがって、すぐにその不安は消え、今ではかけがえのない仲間となりました。後期も部屋の仲間、寮の仲間と協力し、充実した学生生活を送っていければと思います。



(注) 部屋コン: 昭和大学では指導担任制度をしており、各教員が1グループ16~24名の学生の担任となっており、細かい指導を行っています。このグループの通称が「部屋コン」です。

2014年度 記念植樹 を終えて

医学部 平井 顕 (学習院高等学校出身)

去る4月12日、富士吉田キャンパスで記念植樹が行われました。早朝、新宿を出発し、つと目の前には青空の中、天へと高くそびえたつ冠雪の富士山を拝むことができました。数か月前までは、毎日当たり前に見ていたこの光景が、今では懐かしく思ってしまうことになりました。

今年の記念植樹では体育館横の白樺、すみれ寮に降りていく坂道の脇に紅葉を植えました。一緒に植樹をした一年生は、まだ入寮したてでどこか不安げな面持ちでした。この坂道が真っ赤に染まる頃には、一年生皆が寮生活登っていけるよう、願いを込めて植樹させていただきました。植樹の後の食事会では二年生から一年生へ寮生活で気を付けることや、楽しむ方法をアドバイスしました。一年生の寮生活がより一層楽しく実のあるものになるよう、二年生一同心から願っております。



オープンキャンパス

医学部 山本 彩夏 (志学館高等部出身)

寮祭2日目の6月22日(日)にオープンキャンパスが開催されました。あいにくの天気です元気が悪い中、500人以上の方が参加してくださいました。ご参加の皆さんは、寮を見学したり、食堂で昼食をとったり、寮祭の模擬店で軽食を買ったりなさっていました。なかでも受験生が気になる入試について大学生に質問できる相談コーナーは人気でした。受験勉強の進め方や入試の傾向・対策などについて、未来の先輩の話を一言も聞き逃すまいと、真剣な面持ちで耳を傾けている姿が印象的でした。私も1年前同じように先輩の話を伺っていたのを思い出しくなりました。

また、全体説明会会場では小出学長先生から昭和大学の歴史や特徴について、富士吉田学生部長の田中先生から富士吉田キャンパスでの生活について、それぞれ説明がありました。私は寮生活と受験勉強についてお話ししました。拙い話ではありましたが、皆さんが笑顔で聞きながら聞いてくださったので、緊張せずに受験生へのメッセージを全て伝えることができました。

オープンキャンパスに参加してくださった皆さんと、そしてお越しになれなかった方々とも、来年の春、昭和大学でお会いできるのを楽しみにしています!



寮祭

寮祭実行委員長 薬学部 岩崎加奈子 (高岡高等学校出身)

本年度の寮祭は、「Show our SHOWA~富士山よりでっかい思い出を~」というテーマのもとに創りあげられました。このテーマには、自分の個性を活かすことのできる寮祭、そして一生の思い出に残る寮祭にしたいという想いが込められています。この想いを実現するために、部門長をはじめ、中央委員、各部門員が約2か月間準備してきました。この準備期間から当日を含め、それぞれが自分の持てる力を発揮し協力し合えたと思います。個性を活かすという目標を少しでも達成できたと感じました。

今年の寮祭は、2日目に朝から雨が降ってしまいました。午前中はなんとか外のステージでイベントを行うことができましたが、後夜祭を行うことができるかどうかという判断を迫られました。予定通りに行いたいという気持ちと健康面や安全面を考えると中止の方がいいのではないかとこの気持ちがあり、とても迷いました。しかし、出演団体の実施への強い思いを聞き、拳行を決断しました。実際、夕方には雨が止み、後夜祭はとても盛り上がったので、決行して本当に良かったと思っています。最後の花火では、私自身の2か月間を思い出しても感動したとともに、みんなの楽しそうな様子を見て、一生の思い出に残る寮祭にするという目標は達成できたのではないかと改めて実感しました。

最後になりましたが、寮祭を実施するにあたって協力してくださった先生方、父兄の皆様、先輩方、事務課の方々、食堂の方々、地域の皆様、ボイラ一関係者様、そして実行委員一同に感謝いたします。ありがとうございました。



体育祭を終えて

体育祭実行委員長 医学部 飯田 裕太 (市川高等学校出身)

6月21日の午前中に寮祭の前イベントとして体育祭が実施されました。実行委員長として23人の実行委員と一緒に体育祭が盛り上がるように企画してきました。人をまとめる役割は初めてのことで、仕事を割り振ることや先生と打ち合わせするのが遅くなるなど、なかなかうまく時間を使えなかったと思っています。また当日には、600人近くの学生に競技の進行に合わせて指示通りに動いてもらうことの難しさを痛感しました。しかし体育祭の最中、学生が楽しく競技に参加している姿や、一生懸命走っている姿を見て、非常に感慨深いものがありました。また、学生同士で注意の声をかけているのがとても助かりました。体育祭が終わった後、友達だけではなく、今まで知らなかった人からも「とても楽しかった!」「体育祭をまる1日やりたかった!」などと言われて、頑張ったことが無駄ではなかったと実感できました。

体育祭実行委員長として3週間活動してきて、人をまとめる難しさや、意思を共有する難しさを知ることができたのと同時に、やりがい、達成感も得ることができたので、体育祭実行委員長を引き受けることで人間的に成長でき、良かったと今では感じています。

